

2025 年度 【 丹波 】 ブロック活動報告

ブロック代表理事氏名（ ニツ石 俊明 ）

■活動目標

1. ブロック間のスムーズな情報共有化を行い課題解決に取り組む。
2. BCP 策定における地域の多職種や行政との連携強化を図る。
3. ステーションで働く職員の職場満足度向上、スキルアップを目指す。

■活動内容

1. 定例連絡会（管理者・役員会）

回	開催年月日	主な討議事項	出席者数
1	2025 年 4 月 19 日	理事会報告・2025 年度研修会について	15 名
2	2025 年 7 月 19 日	総会報告・2025 年度研修内容の決定研修役割分担	13 名
3	2025 年 10 月 18 日	理事会報告・研修会後の振り返り	9 名
4	2026 年 1 月 17 日	理事会報告（ナーシング・スキルについて）	11 名

2. 総会 なし

3. 研修会

1) ブロック独自研修

研修会名	開催年月日	場所	講師	参加者数
BCP 策定内容のブラッシュ UP	2025 年 10 月 18 日	三田市総合福祉保健センター	甲斐加津代	40 名

2) その他研修会

研修会名	開催年月日	場所	講師	参加者数
人と通じ合うためのオノマトペを活用したコミュニケーション術	2025 年 4 月 11 日	兵庫県福祉会館	藤野良孝	200 名
暮らしの中での見取り	2025 年 7 月 5 日	アクリエひめじ小ホール	関本雅子	80 名
認知症について	2025 年 7 月 10 日	Web	兵庫中央病院	2 名
明日からの実践につなげる口腔ケア	2025 年 8 月 9 日	西脇市立西脇病院	古家ゆかり	20 名
Heart 研究会	2025 年 8 月 22 日	市立福知山市民病院	阪本貴	30 名
非常電源勉強会	2025 年 10 月 2 日	柏原総合庁舎	井上勝哉	1 名

4. 交流会

開催年月日	場所	内容	参加者数
	兵庫県立丹波医療センター	心不全患者への支援 丹波医療センター総合診療医との交流会	40 名
2025 年 7 月 23 日	青垣訪問看護ステーション (Web)	No.089 みんなで語ろう 訪問看護	30 名
2025 年 7 月 26 日	三田市総合福祉保健センター	地域包括ケアシステムの「基本のキ」を学ぼう	83 名

5. 地域の関連機関との連携及び会議等の出席に関する事項

会議名	開催年月日	場所	出席者氏名
三田在宅医療福祉介護連携会	2025 年 4 月 25 日	中井医院	中井・吉原・西村
三田在宅医療福祉介護連携会	2025 年 5 月 16 日	中井医院	上田・矢田・東井・浜口・高橋
三田在宅医療福祉介護連携会	2025 年 9 月 19 日	中井医院	大村
三田市情報共有部会	2025 年 5 月 21 日、6 月 2 日 7 月 23 日、8 月 27 日、 10 月 22 日	三田市民病院 三田市役所	藤本・森
三田市医療的ケア児等支援 連絡会	2025 年 5 月 16 日、 7 月 18 日、9 月 12 日	総合福祉保健 センター	森
看取りワーキング	2025 年 6 月 27 日、9 月 26 日	三田市民病院	森
丹波市医療介護連携 ワーキング会議	2025 年 5 月 22 日	丹波本庁第 2 庁舎 1 階 101 会議室	足立
丹波市介護保険サービス事業 者協議会 運営委員会	2025 年 5 月 16 日、7 月 18 日 8 月 20 日、9 月 19 日	ハートフルかすが	前田
丹波市医療介護連携会議	2025 年 8 月 7 日	丹波市役所本庁	前田
丹波市福祉人材確保対策会議	2025 年 8 月 22 日	丹波市役所本庁	前田
丹波市口腔ケア推進会議	2025 年 9 月 11 日	丹波市市役所 第 2 庁舎	前田
丹波篠山市 在宅医療・介護 連携推進協議会	2025 年 8 月 29 日	西紀老人福祉 センター	赤井
丹波篠山市地域自立協議会 第 1 回精神保健福祉部会	2025 年 9 月 1 日	丹波篠山市役所 本庁舎	赤井
丹波篠山市地域自立協議会 第 2 回精神保健福祉部会	2025 年 11 月 12 日	四季の森生涯学習 センター	赤井
丹波篠山市地域自立協議会 第 3 回精神保健福祉部会	2026 年 2 月 6 日	丹波篠山市役所 本庁舎	赤井
第 3 回丹波篠山市地域支援 自立協議会医療的ケア部会	2026 年 2 月 26 日	丹波篠山市役所 第 2 庁舎	赤井

6. その他の報告内容 なし

■活動の評価

1. 定例会ごとに情報共有を行い課題解決に取り組むことができた。
2. BCP 研修にてブラッシュアップを行うことができ、ステーション毎の問題点等も話し合うことができたが他職種や行政との連携が図れるところまでは至らなかった。
3. 各ステーションでナースング・スキルを活用することによるスキルアップへの道筋ができた。